

出前講義演題メニュー

V 生物生産学科

分野：水産環境

1 『海中に広がる森林や草原…藻場って何だ？』 (担当：村瀬)

海の中には森林や草原のように海そうの広がった場所があり、それを藻場と呼んでいます。藻場には海中林、ガラモ場およびアマモ場の3つのタイプがあります。藻場の主なはたらきには、1) 多様な生物が生活する、2) 海の環境を保つ、3) 海の景観を保つ、があります。

ここでは、3つのタイプの藻場を構成する海そうたちを紹介し、藻場のはたらきを解説します。また、磯焼けなどの藻場や沿岸環境を脅かす問題点も解説します。

分野：増養殖

2 『日本の養殖あれこれ』 (担当：酒井)

日本人は昔からたくさん魚を食べてきました。日本を囲む四方の海の幸の恩恵を受けてきたのですが、近年は環境の悪化や乱獲などの理由で魚があまり捕れなくなってきました。

そこで、魚を増やしたり、養殖したりすることも重要な政策や産業となっています。日本における増養殖の概要についてお話しします。

分野：魚類進化

3 『フグの生物学』 (担当：高橋)

フグの町下関。ただ、魚としてのフグの特徴は意外と知られていません。フグはなぜお互いによく似ているのか、なぜ毒を持っているのか、なぜ時々異なる種間で交雑してしまうのか、このような疑問について、生物学的な側面から解説します。

分野：魚類の病気

4 『魚の病気』（担当：安本）

魚も我々と同様に病気になります。病原体の種類もウイルス、細菌、真菌、寄生虫など様々な種類が存在します。実際に、魚の養殖現場では病気の発生によって、毎年大きな被害がでています。観賞魚でもたくさんの病気が報告されていて、魚を飼育したことがある人なら、一度は病気に悩まされたことがあるでしょう。そこで、マダイやブリなどの水産有用種やニシキゴイやキンギョなどの観賞魚における病気を紹介するとともに、その対策法について解説します。